

## 2015 年度 センター試験 世界史 B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	年号の数字の細かい知識に頼らずとも、時代のイメージにより絞り込めば解ける年代問題である。リード文の文脈から、この後3世紀のローマが軍人皇帝時代に突入することが読み取れるので、その少し前である五賢帝時代の最後である大秦王安敦（マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス帝）が2世紀に該当すると見抜けばよい。
	問5	文化史の問題はセンターでは例年一定数が確実に出题されるが、ここではともにイギリス人であり時代が近い作家を扱っているので要注意。ミルトンは『失樂園』を著したピューリタン文学の作家であり、『ロビンソン＝クルーソー』の著者はデフォー。
	問7	近年定着している年表形式の年代問題だが、年表中の各事項とオーストラリア連邦（自治領）の成立（1901）には直接の関連がなく、流れから類推できないため、年号自体を暗記していないと正答が難しい。
	問8	ムガル帝国の公用語がペルシア語であるという点は、見落としがちだが大切なポイントである。なお、現パキスタンの公用語であるウルドゥー語は、ムガル帝国のイスラーム教徒の兵士たちの間でヒンディー語にペルシア語やアラビア語の単語が混じって形成されたものである。
第2問	問1	ガーナ王国のサハラ貿易やマラッカ王国など、交易に関する事柄を集めた、近年の全般的な世界史入試問題の傾向をよく反映した問題。アラム人は陸上交易に従事したので、誤りを見抜くことは難しくない。
	問7	合衆国南部の綿花プランテーションは基本事項。しかし、その他の選択肢の誤りも見抜きたいところ。①に関して、中国での綿織物業の本格的な発展は明から。②に関して、ジョン＝ケイの飛び杼は織布工程のもの。④に関して、石油が原料の繊維という点から20世紀のものだと気付きたい。
	問9	ギリシアの独立は、アドリアノーブル条約によるとするなら1829年だが、国際的承認を重視するならロンドン会議の1830年。いずれにせよ、ウィーン体制前半（1830年の七月革命まで）の事件と認識していれば正答できる。
第3問	問5	アズハル学院はカイロで創設されたので①が誤文。なお③に関して、インターナショナルの結成地は意外に忘れやすいので注意。第1インターナショナルはロンドン、第2インターナショナルはパリである。
	問6	各事件とも、年号の直接の暗記は不要。西遼（カラ＝キタイ）の成立は遼（契丹）の滅亡の後であるから、それに近い靖康の変（1126～27）もしくは南宋の成立（1127）の後と考えると、12世紀と判断できる。次に、突厥はエフタルをササン朝（ホスロー1世、6世紀）と挟撃して滅ぼしたことなどを想起すると、6世紀と判断できる。そして、アッティラがフン族の大帝国を形成したのはゲルマン人の大移動（375～）のしばらく後だと考えると、5世紀だと判断できる。これらをもとに配列すればよい。
	問9	万国平和会議はやや細かい事項だが、リード文の後半の内容からハーグ密使事件の名称を想起できるはず。
第4問	問2	問題文の通り、実際に世界の女王たちに関する説明文で構成された設問だが、内容は標準的なもの。特殊な知識は求められていない。
	問3	問2と同様に、オリンピックに関する説明文で構成された設問だが、内容は標準的。なお②に関して、1984年のロサンゼルス大会の際の合衆国は「強いアメリカ」を掲げたレーガン政権の時代であった。ブレア政権はイギリスの内閣（1997～2007）であり、ブッシュ（子）政権のイラク戦争（2003）に参加したことを押さえておきたい。

	問 4	<p>ビザンツ帝国で養蚕の技術を入手し絹織物業を発展させたのは、6世紀のユスティニアヌス帝（1世、大帝）。これは頻出事項なので押さえておこう。また、朝鮮（李朝、李氏朝鮮）での科挙の実施はやや細かい事項だが、朝鮮の国家が中国王朝の制度・文化を積極的に導入し続けたことから類推しよう。</p>
	問 7	<p>センターでは文化史についても作品や思想などの内容を問う設問が出されるため、理解を伴う学習が有効である。ここでは宋学の内容が問われているが、宋学を大成した朱子学の中心思想は理気二元論であり、宇宙の原理と人間の本質の関係を論じていることを想起すれば a は正文と判断できる。</p>
	問 8	<p>設問ミスのため正答が2つになってしまっている。この文だと空欄アに“貞享暦が改訂された時代”（清）と“貞享暦が作られた時代”（元）のどちらも入れることができってしまうため、②・④どちらも正解となる。“の時代に”に続く句読点がなければ②が単一の正解なので、問題文の作成ミスである。</p>